

石川

ISHIKAWA PREFECTURAL
MUSEUM OF HISTORY

れきはく

No. 149

2025.1.4

!!いま見たい!!

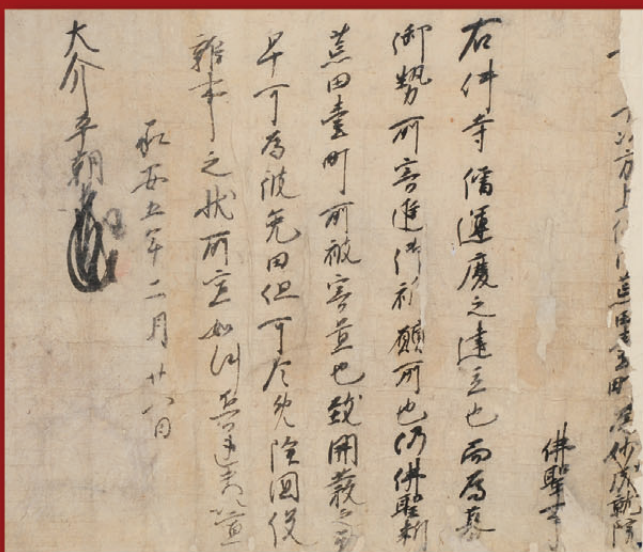
能登の 文化財

令和6年度 テーマ展



テーマ展 1

輪島・住吉神社
ゆかりの宝物



2025年

1/4 土 2/16 日

画像上：鼻高面 室町時代 輪島市・住吉神社伝来
石川県立歴史博物館蔵

画像下：石川県指定文化財 須須神社文書のうち 能登国司庁宣
承安5年(1175)2月28日 珠洲市・須須神社蔵

テーマ展 2

県指定文化財
須須神社文書を読む



令和6年度
テーマ展

能登の文化財



はな だか めん
鼻高面
室町時代 住吉神社伝来
石川県立歴史博物館蔵

まるで
天狗のような
お面!



たい こく てん ぞう
大黒天像 頭部
室町~江戸時代 住吉神社伝来
石川県立歴史博物館蔵

もとは巨大な
大黒天像!?

テーマ展 1 輪島・住吉神社ゆかりの宝物



神社で
拝まれた
仏様

輪島市鳳至町の中央部に鎮座する住吉神社は、式内社である鳳至比古神社の後裔にあたる神社のひとつと伝えられ、鳳至郡の大宮として広く信仰されてきました。本展では、当館のコレクションの中から住吉神社伝来の仮面や懸仏、仏像を紹介します。度重なる災禍をくぐり抜けて現在に伝わる貴重な宝物をご覧いただくとともに、中近世における住吉神社の様相の一端を探ります。当館リニューアル後、初公開の作品が目白押しです。ぜひご堪能ください。

ぼ さつ てん ぶ かけ ぼ とけ
菩薩・天部懸仏のうち虚空蔵菩薩懸仏
江戸時代 住吉神社伝来 石川県立歴史博物館蔵

関連イベント

学芸員による 展示解説

令和7年1月8日(水) 10:30~11:30
令和7年1月11日(土) 13:30~14:30

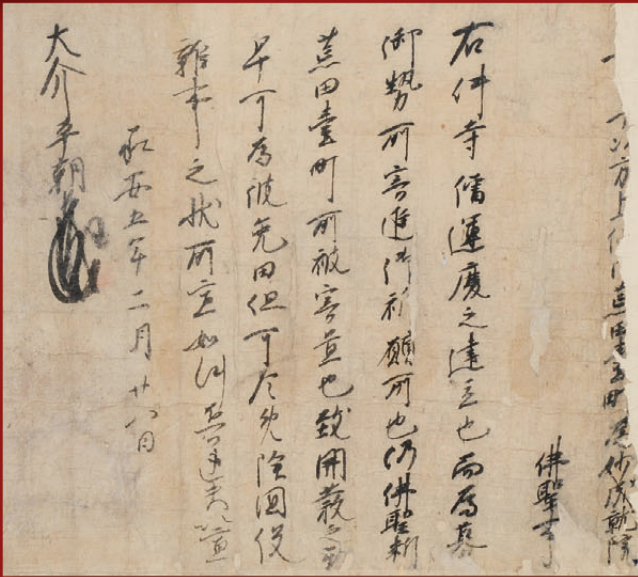
前半30分はテーマ展1、
後半30分はテーマ展2の
解説を行います

令和6年能登半島地震、および令和6年奥能登豪雨により、能登半島は甚大な被害を受けました。住み慣れた町の風景が一変し、また故郷を離れることを余儀なくされた方々も多い中、地域の宝を知ることは、ふるさとの魅力を再発見し、生活再建へ歩む活力に繋がるのではないかと思います。加えて、被災状況が広く報道され、レスキュー等で県内外から多くの人が訪れる中で、全国的に能登への関心が高まっていることを感じます。

地震から1年となる今、当館では、奥能登地域に伝わった文化財を二つのテーマで展示いたします。本展が、能登の歴史・文化に対する理解を深め、能登へ心を寄せる機会となれば幸いです。

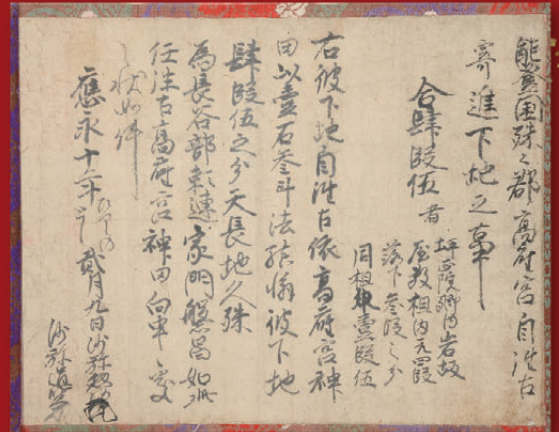
2025年 1/4 土 → 2/16 日 【開館時間】9:00~17:00
(展示室への入室は16:30まで)

【料金】常設展の料金でご覧いただけます。一般300円(240円)、大学生・専門学校生240円(190円)、高校生以下無料、
()内は20人以上の団体料金。65歳以上は団体料金。障害者手帳または「ミライロID」提示の方と付添1人は無料。
【主催】石川県立歴史博物館 【後援】北國新聞社、NHK金沢放送局



石川県最古!
平安時代の
年紀を持つ古文書

かがはつか ちようけ
加賀八家・長家の
ご先祖からの援助



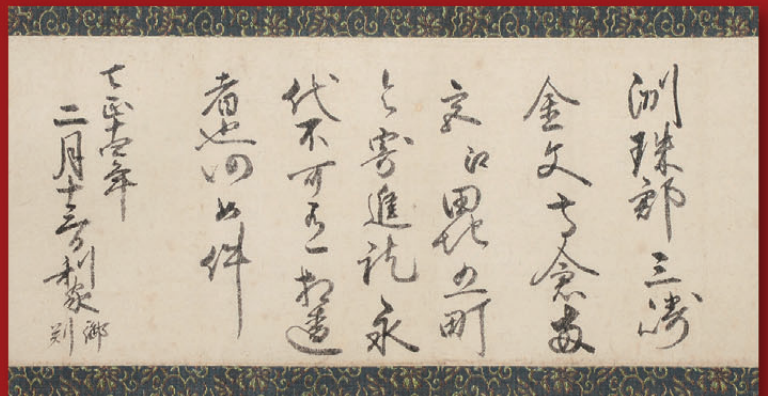
石川県指定文化財 「能登国司庁宣」
承安5年(1175)2月28日 須須神社蔵

石川県指定文化財 沙弥惣阿・道監連署書下状
応永10年(1403)2月9日 須須神社蔵

テーマ展 2 県指定文化財 須須神社文書を読む

能登半島の北東端、珠洲市三崎町にある須須神社は、奥能登屈指の古社として知られ、多数の文化財を所蔵しています。中でも石川県指定文化財である須須神社文書は、県内最古の年紀を持つ承安5年(1175)2月28日の「能登国司庁宣」をはじめ、平安時代から江戸時代に至るまでの貴重な古文書を擁する文書群であり、本県の歴史を語るうえで必須の資料となっています。本展では須須神社文書とその関連資料を展示し、須須神社およびその別当寺であった高勝寺(現在は廃寺、翠雲寺が跡地に移転)の歴史を紹介します。

前田家との深い関係
利家からの寄進状



石川県指定文化財 前田利家寄進状案
天正14年(1586)2月13日 須須神社蔵

資料 紹介

源義経和歌をめぐって — 須須神社に残る義経伝説 —

◆ 学芸主任 岡崎 道子

須須神社には、源義経直筆とされる和歌懐紙ⁱが伝わる（画像1）。本紙の縦が約35cm、横が約32cmの巻子装で、表面の劣化が激しく、内容はほとんど読み取れない。辛うじて左端に「源義経」の字が見える程度である。

ここに記された和歌については、同社の所蔵する「蟬折笛縁起」の記載から、次のようであったと推測される。

都より 波の夜る屋 うかれきて
道遠くして うきめを見るかな
うきめをば 藻塩と共に かきながし
悦びとなる 鈴の御崎は

本紙を注意深く見ると、「道」「憂」といった文字が読み取れることから、この和歌を記したものでおおよそ間違いないであろう。

和歌のうち、1首目は義経の従者が詠んだもの、2首目はそれを受けて義経が詠んだ返歌である。「蟬折笛縁起」は須須神社の宝物として現存する「蟬折笛」の来歴を記したもので、兄頼朝に迫われた義経一行が奥州に落ち延びる途中、同社に立ち寄り義経所持の名器「蟬折笛」を奉納する内容となっている。義経一行は珠洲の浦の沖合で暴風に見舞われ、須須権現へ祈りをささげて何とか浜辺に漂着した。この時従者の一人がこれまでの艱難辛苦を嘆いて歌を詠み、これに対し義経が返歌して、一行は互いを慰め、生き延びられた返礼として権現へ蟬折笛を奉納したとある。

この和歌懐紙は蟬折笛と共に奉納されたものとして、須須神社に伝わったのであろう。同社にまつわる義経伝説を補強する資料として、また同社の権威をいっそう高めるものとして珍重されてきた。そのことを示す資料として、同社に伝存する「古筆某極書」が挙げられる（画像2）。本資料は義経の和歌懐紙が義経真筆であると鑑定したもので、劣化が激しく下部はほとんど欠失しているものの、「義経正筆」「天正二年」「古筆」の文が確認できる。

古人の筆跡を鑑定する「古筆見」は、江戸時代初期に活躍した古筆了佐（1572-1662）を始祖とする古筆家が著名であるが、本資料で鑑定者として署名している古筆某との関係は不明である。本資料が天正2年（1574）に作成されたものかどうか検討の余地があるが、中世に遡る極書についての見識が筆者に無いため、真偽を判定することはできない。

この極書の興味深い点は、極書自体の極札が本紙右端に貼り付けられている点である。札には

安永元年五月改 東都
正筆之極 古筆良意（印）
（割判）

とあって、極書が古筆某の正筆であると鑑定している。義経の和歌懐紙の極札である可能性もあるが、天正2年の極書に貼り付けてある点、「正筆之極」とある点から、極書の極札であるとみられる。ただし「古筆良意」なる人物が安永元年（1772）に存在したかは確認できず、極札が真に古筆家によって作成されたものかどうかは疑問が残る。

極書・極札の真贋は措くとして、その存在は、須須神社にとって義経来訪の伝承がいかに重要であったかを物語る。同社に伝わる義経に関係した諸資料は、歴史的事実を裏付けるものではないかもしれないが、歴史ある社を守るために奮闘した先人たちの姿を今に伝える確かな証しといえよう。



（画像1）伝源義経和歌懐紙 年未詳 須須神社蔵



（画像2）古筆某極書 天正2年（1574）か 須須神社蔵

i 本来の「和歌懐紙」の定義からは外れた資料であるが、資料そのものを指す用語として、便宜上使用する。

特集

令和6年

Vol.4

能登半島地震によせて

「令和6年能登半島地震」の発災から1年が経過しました。被災地での復旧は段階的に進んでいるものの、2024年9月に発生した豪雨災害で更なる被害を受け、さらに時間を要する見込みです。

「文化財レスキュー」もまた発災直後より継続的に行われており、多くの被災文化財が救出避難されました。しかし今もなお未救出の資料があり、家屋の解体も進む中、文化財についての新たな相談も日々増加している状況です。1つでも多くの文化財を後世に残すために、レスキュー活動の持続が求められます。

4回目の特集となる今号では、能登・加賀地域の考古学研究や文化財保護活動を牽引し、震災後は文化財レスキューにも積極的に参加されている石川考古学研究会の会長・小嶋芳孝氏による特別寄稿とともに、文化財レスキューに取り組む当館学芸員の所感をお届けします。

能登の復興を目指して — 能登に博物館を —

石川考古学研究会 会長 小嶋 芳孝

昨年1月1日の震災後、被災した文化財を救出するために国が設置した文化財防災センター（以下、文防と記します）による文化財のレスキュー活動が、2月から能登で進められています。文化財レスキューは古文書や民具・仏像などの動産文化財を対象にしている、被災した遺跡は対象になっていません。石川考古学研究会では文化財レスキューに協力するとともに、レスキュー対象になっていない遺跡の被害調査に取り組みました。七尾市の三室まどかけ1号墳は横穴式石室が崩壊、中能登町の雨ノ宮1号墳は墳丘に地割れが多数入り、輪島市の稲舟横穴墓群は崖崩れで消滅していました。珠洲市では南黒丸横穴墓群や岩坂向林横穴墓群が崖崩れで多くの横穴墓が開口し、9月の豪雨で墓室内に雨水が浸入していると思われます。また、船の線刻が描かれた岩坂藤瀬山1号横穴墓は、崖崩れで入り口が埋まっていました。被災遺跡の保護措置は教育委員会など行政が担う業務なので、速やかな対応を期待しています。

文防が救出する文化財は、所有者による市町や県への要請にもとづき進められています。能登の市町役場では文化財担当者が一〜三人で、指定文化財でも被災状況を確認できていないケースがあるのではないかと危惧しています。県がまとめた文化財の救出要請は、12月12日時点で244件あり、

157件が救出されています。この数字は救出要請のあった件数なので、被災文化財の総数ではないことに注意する必要があります。救出した文化財は中能登町と能登町に設置された文防の収蔵庫や、珠洲市・能登町・志賀町などが独自に設置した収蔵庫で保管されています。救出完了は2025年夏過ぎになると思われ、その時点で文防は能登から引き揚げると予想しています。復興が進むと救出された文化財の返却が始まりますが、救出文化財の管理・返還の担当機関や実施方法を策定する必要があります。

能登には、国・県・市町指定の文化財が約1600件あります。未指定の文化財も多数あり、これら多くは個人や寺社の管理に委ねられています。現在の能登には文化財を調査研究して保存・展示する施設がありません。救出文化財の返還が始まる前に、文化財を収蔵し調査・活用できる施設を能登に設置することが不可欠です。また、今回の震災・豪雨災害の記録や記憶を保存し後世に伝える施設設置も重要な課題です。

人々が能登に住む誇りと自信を取り戻すためにも能登に博物館を設置し、厳しい自然環境の中で豊かな歴史文化・風土を育んできた人々の暮らしを発信することが必要です。能登復興計画に、博物館を設置する構想が含まれることを切望しています。

文化財がもつ力を信じて

学芸主任 林 亮太

能登半島地震が起きて1年が過ぎました。昨年9月には豪雨による水害も発生し、能登は大きなダメージを負っています。

当館では地震発生後、文化財レスキューに取り組んできました。レスキューで能登を訪れるたびに、私のなかでなんとも表現し難い違和感が生じていました。当初は、その違和感の正体は何なのか、わかりませんでした。ただ、今振り返って考えてみると、家族や友人と訪れた自分が知っている能登の風景と地震発生後の能登の風景があまりにも乖離し、理解が追いつかないことによるものだったように思います。地震被害により変貌した能登の風景に対し、信じられない気持ちなどがどこかにあったようです。

地震が多く発生する日本列島において、能登半島も例外ではなく何度も地震被害にあってきました。たとえば、享保14年(1729)7月、奥能登地域に地震が起き、全壊約250軒、半壊約500軒の被害が出ています。天保4年(1833)10月には、庄内沖を震源とする大地震により、大津波が輪島の町を襲い、約370軒が被害にあっています。こうした被害を受けながらも、能登はよみがえってきました。もちろん、元通りの姿に戻ることはなく、能登をあとにした人もいましたが、そこで生活し続ける人もいたことは事実です。そこには、生まれ育った地域に住み、地域の歴史・文化を途絶えさせたくない、という気持ちがあったのかもしれない。

歴史・文化を継承していくには、人だけではなく、文化財であるモノ資料も遺す必要があります。文化財は、地域のアイデンティティの源として重要なものです。文化財レスキューで出会った資料のご所蔵者の方のなかには、伝来した資料を救出することでその地域の歴史・文化を未来へ伝えたい、という意向をお持ちの方もいました。生活を再建しながら、文化財を守り、未来へ継承しようとする思い、またその行動は、地域の復興の原動力につながると思います。それが、文化財がもつ力のひとつだと信じています。現在、取り組んでいるレスキュー活動が、能登を復興し、歴史・文化を継承しようとする方々の一助になれば幸いです。

文化財レスキューに参加して

学芸員 齋藤 仁志

昨年の1月1日、能登半島地震が発生したとき、私ははるか遠く九州の実家にいました。たまたまテレビをつけていたため、地震が発生した直後から“能登で地震があった”という情報は得ていましたが、肝心の「能登」のことは当時ほとんど何も知らない状態でした。

その後、4月になって石川県立歴史博物館に着任してすぐに、文化財レスキューに参加する機会がやってきました。着任する前からレスキューへの参加は覚悟していましたが、初めてのレスキュー案件は被災した神社から巨大な絵馬を救出するという大変なものでした。その後も多くのレスキューに参加しましたが、雨や暑い日差しの中かで、泥などにまみれながら文化財を救出することには予想以上の難しさがあります。しかし、無事に文化財が救出されたときの、ご所蔵者など関係者の皆様のホッと安心されている姿をみて、その困難な作業にも大きなやりがいを感じています。

文化財レスキューのために能登に行く機会が増えたため、能登の地理にも徐々に詳しくなり、あれだけ遠いと思っていた奥能登も、今ではさほど遠いと思わなくなりました。また、被災資料を通して能登の豊かな歴史にも気づくことができ、今後の博物館の展示などにぜひ反映させたいと考えています。

能登の風景はどことなく私の故郷に似ており親近感を抱いているのですが、そのなかで被災した家屋などをみると心が痛みます。くわえて、衝撃をうけたのは、地元九州に帰省して知人に被災地の現状を話したとき、「もう復興したと思っていた」と度々言われたことです。人口流出の危機を迎えている現状とは裏腹に、世間では能登半島地震のことが風化しつつあることを実感し、強い危機感を覚えました。

学芸員としての立場から、復興のためにどのようなことができるのか。着任以来常々考えていますが、まだ漠然とした考えしか得られていません。とにかくいまは、私ができることとして、文化財レスキューによってひとつでも多くの文化財を守ることに専念しつつ、自分に何ができるのかを見極めていきたいと思っています。

能登の歴史文化に 光を当てる

学芸員 中井 夏帆

今年度のはじめ、着任したばかりの私の心は不安に満ちていました。他県から越してきてまもなく、学芸員としても未熟な自分が被災文化財のためにできることはあるのだろうか。しかし、このような気持ちを吹き飛ばすように、文化財レスキューに関する相談が次々と寄せられました。

私が1番最初に携わったのは着任の約1週間後、個人の方が所有する仏壇の中に安置された仏像と掛軸のレスキューでした。ひとつおりの調査を終えて梱包作業を進めていると、その様子をご覧になった所有者の方が「こんなに丁寧に扱ってくださって嬉しい。相談して良かった。」と仰いました。話を伺うと、代々家に受け継がれてきた貴重なものを自分の代で手放してしまうかもしれない状況に直面し、大変悩んでいらっしやったようです。この出来事をきっかけに、自分がレスキューする文化財は、所有者にとっての「大切なもの」であるのだと強く認識しました。同時に未熟な自分でもできることを探して動かなければならないと感じました。

今回の震災では、様々な種類の文化財が甚大な被害を受けましたが、私が研究対象とする仏像もその例外ではありませんでした。頭部を失ったまま発見された仏像、倒壊した建物の下に長い間置かれて雨露がかかった仏像。本来人びとの願いを受ける存在である仏像の傷ましい姿を目にした時は、胸が張り裂けるような思いでした。いっぼうで震災による文化財レスキューの過程で、今まで知られていなかった仏像が見いだされたり、像の破損により内部に墨書銘や納入品があることが判明したりと今後の研究に進展をもたらすような発見もありました。文化財のレスキューは長期戦となることが見込まれますが、レスキューに加えて文化財の調査・研究を進めることが私たちの使命であると考えています。能登地域で育まれてきた歴史文化にあらためて光を当てることが、被災地の復旧・復興の一助となることを願い、調査・研究に励みたいと思います。

当館の主な文化財レスキュー活動状況

【10月～12月】

期 日	曜日	活動内容
10月 8日	火	志賀町 個人宅 現地調査
10月10日	木	珠洲市 個人宅2件 レスキュー
		志賀町 個人宅 レスキュー
10月11日	金	珠洲市 寺院 文化財防災センター(以下、文防) 現地調査参加
10月20日	日	いしかわ歴史資料保全ネットワーク(以下、いしかわ史料ネット)の協力による被災古文書の整理作業
10月23日	水	七尾市 個人宅 現地調査
10月24日	木	輪島市 個人宅 文防現地調査参加
10月28日	月	歴史資料ネットワーク主催 下貼り文書はがしワークショップ(当館職員対象)
10月29日	火	七尾市 個人宅 現地調査
10月31日	木	珠洲市 個人宅 現地調査
11月 1日	金	輪島市 個人宅 現地調査
11月 3日	日	読売新聞(全国版)で、いしかわ史料ネットの協力による被災古文書の整理作業の様子が報道される
11月 6日	水	輪島市 個人宅 現地調査
		能登町 個人宅 現地調査
11月 7日	木	輪島市 個人宅 現地調査
11月 9日	土	七尾市 個人宅 レスキュー
11月12日	火	輪島市 美術館 文防レスキュー参加
11月13日	水	輪島市 美術館 文防レスキュー参加
11月15日	金	輪島市 美術館 文防レスキュー参加
11月17日	日	いしかわ史料ネットの協力による被災古文書の整理作業
11月20日	水	輪島市 美術館 文防レスキュー参加
11月22日	金	輪島市 個人宅 レスキュー
		輪島市 個人宅 現地調査
11月23日	土	輪島市 寺院 被災資料調査
11月25日	月	金沢市 神社 レスキュー
11月28日	木	志賀町 個人宅 現地調査
		志賀町 個人宅 レスキュー
12月 3日	火	輪島市 個人宅 現地調査
		輪島市 寺院 現地調査
12月 4日	水	輪島市 寺院 現地調査
12月 7日	土	いしかわ史料ネットの協力による被災古文書の整理作業
12月 8日	日	野々市市 個人宅 現地調査(珠洲市からの避難資料)
12月 9日	月	金沢市 個人宅 現地調査(穴水町からの避難資料)
12月10日	火	穴水町 寺院 文防現地調査参加
12月11日	水	能登町 個人宅 文防現地調査参加
		能登町 個人宅 現地調査
12月12日	木	輪島市 個人宅 文防レスキュー参加
12月13日	金	輪島市 個人宅 文防レスキュー参加
12月16日	月	輪島市 個人宅 文防レスキュー参加
12月17日	火	七尾市 個人宅 レスキュー
12月23日	月	珠洲市 個人宅 レスキュー

文化財レスキューとは

地震で被害を受けた、もしくは倒壊しそうな建物に残された「文化財」の救出避難・応急措置・一時保管を実施する事業です。石川県では国の文化財防災センターと連携して学芸員らによるレスキュー隊を編成しており、当館も県立博物館として活動にあたっています。

なお、ここで言う「文化財」とは、地域の歴史を伝える有形文化財や有形民俗文化財を指しますが、指定の有無は問いません。

催し物
案内
Information

当館で開催する展示解説や各種講座などの情報をお知らせします。
※各種催し物の詳細については、当館ホームページにてお知らせします。

1月 休館日：1/1(水)～1/3(金)

8日(水) 「令和6年度テーマ展」展示解説 10:30～11:30 講師：当館学芸員 要覧覧会チケット 申込不要

11日(土) 「令和6年度テーマ展」展示解説 13:30～14:30 講師：当館学芸員 要覧覧会チケット 申込不要

15日(水) いしかわ歴史講座 13:30～15:00 「前田綱紀の図書収集」 講師：吉田 朋生 (当館学芸員) 聴講無料/申込不要

18日(土) れきはくゼミナール 13:30～15:00 「能登における陵墓の探索」 講師：三浦 俊明 (当館資料課長) 聴講無料/申込不要

29日(水) いしかわ歴史講座 13:30～15:00 「加賀藩本郷邸の空間構造と生活」 講師：林 亮太 (当館学芸主任) 聴講無料/申込不要

2月 休館日：なし

12日(水) いしかわ歴史講座 13:30～15:00 「加賀藩御用絵師・佐々木家の活動」 講師：中村 真菜美 (当館学芸主任) 聴講無料/申込不要

2月 休館日：なし

15日(土) れきはくゼミナール 13:30～15:00 「石川県の「露語研究留学生」」 講師：齋藤 仁志 (当館学芸員) 聴講無料/申込不要

26日(水) いしかわ歴史講座 13:30～15:00 「紀尾井町事件」 講師：齋藤 仁志 (当館学芸員) 聴講無料/申込不要

3月 休館日：3/17(月)～3/18(火)

1日(土) 館長講演会 13:30～15:00 「後水尾天皇の二条城行幸と武家」 講師：藤井 譲治 (当館館長) 聴講無料/要申込

12日(水) いしかわ歴史講座 13:30～15:00 「能登の神饌文化」 講師：大門 哲 (当館学芸主任) 聴講無料/申込不要

15日(土) れきはくゼミナール 13:30～15:00 「石川観音めぐり」 講師：中井 夏帆 (当館学芸員) 聴講無料/申込不要

26日(水) いしかわ歴史講座 13:30～15:00 「能登の祭礼風流」 講師：大井 理恵 (当館学芸課長) 聴講無料/申込不要

令和
7年度

れきはくメイト会員募集

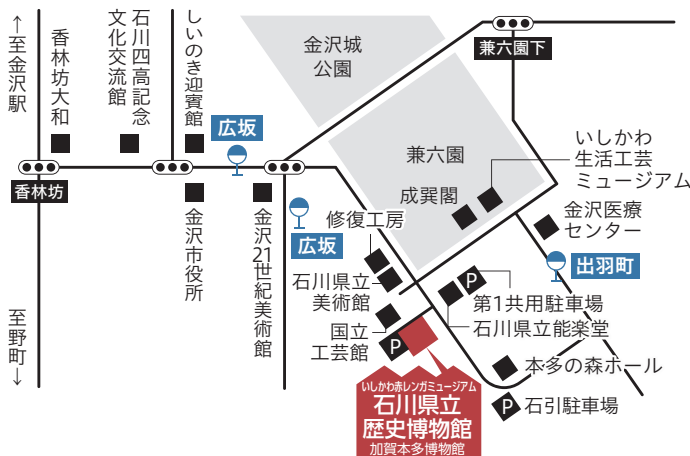
3月1日(土)より、令和7年度「れきはくメイト」の新規・更新受付を開始します。「れきはくメイト」とは、石川県立歴史博物館をより身近なものとしてご利用いただくための組織です。令和7年度からは特典がリニューアルして、ますますお得に当館を楽しんでいただけるようになりました。

会費 1,500円(大学生以下750円) ※10月以降のご入会是一般750円となります。

- 特典例**
- 1 会員証提示により、当館の常設展示を無料で観覧できます。
 - 2 会員証提示により、当館の特別展を団体料金で観覧できます。
 - NEW!!** 3 会員証提示により、当館の特別展を年1回無料で観覧することができます。
 - 4 当館の最新情報を会員限定の情報紙でご案内します。
 - 5 当館が主催する会員限定イベントに参加できます。
 - 6 会員証提示により、当館で販売する図録やオリジナルグッズを10%割引で購入できます。

申込方法 申込方法：来館もしくは郵便振替でのお申込みとなります。

お問い合わせ 当館HPもしくは普及課 (076-262-3417) までお問い合わせください。



いしかわ赤レンガミュージアム

石川県立歴史博物館
ISHIKAWA PREFECTURAL MUSEUM OF HISTORY

〒920-0963 石川県金沢市出羽町3-1
TEL: 076-262-3236 FAX: 076-262-1836
E-mail: rekihaku@pref.ishikawa.lg.jp
https://ishikawa-rekihaku.jp/



オホーツクの海で育った天然帆立の旨味を凝縮した最高級品!

一口食べれば濃厚な旨味と香りがあふれ出す!

ほたて干貝柱

北海道産
100g入・1袋
賞味期間：常温1年半

3,000円 (税込)
本体価格：2,778円

3袋以上ご購入で
送料無料
500円引き!
9,000円(税込) ▶ 8,500円(税込)

●お申し込みはお電話で
●受付時間：午前8:30～午後6:00 ●定休日：日曜・祝日
●お支払いはクレジットカードまたは代金引換【代引手数料330円(税込)】※沖縄・離島はクレジットのみ
●商品は注文確認後7日以内(最短期間)にお届け ●2袋以下の場合は本州送料680円(税込) ※北海道・九州990円(税込)・沖縄・離島3,000円(税込) ※3袋以上ご購入で送料無料 ※2袋以上の場合でも沖縄・離島は別途2,200円(税込)の送料がかかります ●購入者都合の返品は不可 ●お預かりした個人情報は商品の発送以外の目的では使用しません

公財)日本健康・栄養食品協会会員
こだわり素材で美味しく安全に健康応援
KOTONURI
寿物産株式会社
〒970-0046 群馬県高崎市江木町185

☎050-1869-7736